

姉妹都市提携20周年 米国ランカスター市に佐野市訪米団を派遣

11月3日から8日の間、佐野市訪米団が米国を訪れました。これは佐野市と米国ランカスター市の姉妹都市提携20周年を記念したもので、毎年行われている中学生の交流事業に加えて行われました。

訪米団には岡部市長を団長として、寺岡国際交流協会会長、山口市議会議長など団員22人と「さのまる」が参加し、3日にニューヨークに入り、4日から6日はランカスター市、7日にはワシントンDCを訪れ、帰国しました。

ランカスター市に到着すると、ランカスター市のグレイ市長を表敬訪問し、両市の20年の交流について歓談しました。その後、ビジターズセンター前広場では、岡部市長がグレイ市長とともに記者会見を行ったほか、さのまるが現地のキャラクターとともに「さのまる音頭」を披露しました。また、地元の名士の方々と懇談会を行ったほか学校訪問を行い、ランカスター市民との交流を深めるなど、実り多い訪問となりました。



心暖まる、女川町との交流

11月15日、犬伏東小学校でPTA主催のバザーが行われました。今回のバザーでは、宮城県女川町で採れた大きなホタテを焼く匂いが会場に広がりました。



犬伏東小学校では東日本大震災後、稲作体験活動で収穫したもち米を女川町の仮設住宅で生活している方々に贈る活動を続けています。

今回は女川町の代表者が、お礼を兼ねてバザーへの参加となりました。そして、会場でのホタテやのりの売上金を「犬伏小の児童のために、お役立てください」と、柿沼PTA会長に手渡しました。

バザー終了後、10月に収穫したもち米が児童たちから女川町の代表者に贈られました。贈られたもち米は、お正月に仮設住宅の一角で餅つきをして、みんなで食べる計画だそうです。

季節が晩秋から初冬へと移り、温もりが恋しくなるこの時期、バザー会場では、心暖まる交流が行われていました。(市民記者 秋山久美子)

どまんなかフェスタ佐野2014



11月2日、戸室町の田沼グリーンスポーツセンターで「どまんなかフェスタ佐野2014」が開催されました。この催しは市内に日本列島の中心「どまんなか」があることから名づけられたイベントで、毎年11月に開催されています。

出展エリアでは、多くの出店が並び、佐野らーめんやいもフライなど、佐野ならではの名産品・特産品が多数販売されました。

地元企業や各種団体の展示・体験ブースも大勢の来場者でにぎわったほか、佐野ブランドキャラクター「さのまる」も登場し、イベントを盛り上げました。また、会場中央に設置されたステージでは、地元で活動する団体が、和太鼓や各種ダンス、健康体操などを披露しました。

このほか、福引抽選会や自衛隊車両の展示、建設車両の乗車体験なども行われ、朝から河川敷の駐車場まで満車になるほどの大賑わいでした。

天明鑄物作りに挑戦！！



7月から9月にかけて、全5回にわたり天命鑄物伝承保存会が主催した『天明鑄物入門基礎講座』が開催され、11月には作品が佐野市中央公民館やまちの駅である吉井酒造さんなどで展示されました。

この講座の受講者は11人で、佐野にとどまらず栃木市、小山市、明和町などからも参加があり、近隣の方々からも天明鑄物が注目されていることが伺えます。

制作指導をしてくださった天命鑄物師の若林秀真さんが毎日お使いになっている工房(大祝町)をお借りしての作業は、臨場感にあふれ、受講者はいにしへの鑄物師たちに思いを馳せました。粘土で原型を作り、錫を溶かして石膏の型に流し、仕上げる工程を分かりやすくご指導いただき、事前に講義で勉強したことを実践してみて、あらためて大変さを体験しました。(市民記者 永倉文字)



ランカスターでも
大人気のさのまる

11月3日から8日まで、さのまるが佐野市訪米団の一員として市の姉妹都市であるランカスターを表敬訪問しました。

さのまるは、ランカスターで市庁舎訪問のあと、近くの広場でさのまる音頭を披露しました。音頭には地元野球チームのマスコット「サイロ」くんが飛び入り参加し、地元新聞に大きく取り上げられました。

翌日は、幼稚園から中学校までの一貫校であるエリザベスマーティンスクールを訪問しました。各教室には「率先してやろう」などといった生活の指標を示した「七つの習慣」が掲示されており、世界に羽ばたくリーダーの育成に力を注いでいるとのことでした。校長先生をはじめ教育委員会の皆さんとランチを楽しみ、その後、子どもたちとさのまる音頭を踊り、たいへん喜ばれました。さのまると地元の子どもたちは言葉を越えた深い絆で結ばれたことでしょう。(市民記者 中里聖子)

「今を生きる」佐野ばそこん倶楽部



佐野ばそこん倶楽部の創立15周年記念作品展が10月25・26日に文化会館で開催され、たくさんの方々を訪れました。

この倶楽部は、15年前、旗川・植野・吾妻・界の各地区公民館で行われたIT講習会の受講者が集まり、サークルを作りました。そして月に二回、小山武さん(植下町)の指導を受けて、中高年を中心に38名で活動しています。

今回の作品展は「今を生きる」を統一テーマとし、会員の皆さんがパソコンを駆使して制作した力作が100点並びました。

長寿会の写真や旅先での写真に言葉が入り、物語が生まれたり、スタンドグラスや掛け軸など、素晴らしい作品ばかりでした。見学者は口々に「見事です」と感動した様子でした。小山先生は「生きる喜びや感謝を表現しました。まさに、今回の作品展が、このテーマの締めくくりとなりました」と話されました。表現する楽しさが伝わってきた素敵な作品展でした。(市民記者：吉井貴子)

